



平成 19 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 中央化学株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 渡辺 信  
 ( J A S D A Q ・ コード 7 8 9 5 )  
 問合せ先  
 役職・氏名 常務取締役管理本部長 永田 修  
 兼総務部長兼経理部長  
 電 話 0 4 8 - 5 4 0 - 2 6 2 4

## 業績予想との差異に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 19 年 6 月 15 日の「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました平成 19 年 12 月期中間期(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)の業績予想(連結・個別)を下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。

## 記

1.平成 19 年 12 月期連結 中間業績予想数値の修正(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)  
(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A ) (平成 19 年 6 月 15 日発表)	43,000	700	800	4,700
今 回 修 正 予 想 ( B )	41,998	1,324	1,170	4,226
増 減 額 ( B - A )	1,002	624	370	474
増 減 率	2.3%	-	-	-
前 期 (平成 18 年 6 月中間期)実績	41,281	341	133	413

2.平成 19 年 12 月期個別 中間業績予想数値の修正(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)  
(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A ) (平成 19 年 6 月 15 日発表)	33,500	800	800	4,500
今 回 修 正 予 想 ( B )	32,270	1,018	920	4,304
増 減 額 ( B - A )	1,230	218	120	196
増 減 率	3.7%	-	-	-
前 期 (平成 18 年 6 月中間期)実績	33,063	151	210	242

## 3.修正の理由

## (1) 個別

## (営業利益・経常利益)

6 月 1 5 日付「生産体制の再構築に伴う工場閉鎖及び希望退職者募集に関するお知らせ」の公表直後、一時的に社内・外に混乱が生じ、6 月単月の業績が当初想定した水準よりも、営業利益が 2 億円・経常利益が 1 億円程度下回る結果となりました。

社内においては、動揺した社員の休暇取得が急増したり、軽微とはいえ労災事故が発生する等、生産効率が大幅に低下いたしました。

社外においては、中傷めいた噂話が飛び交ったりしたこともあり、6・7月がスーパーにおける発注切替え時期であるにもかかわらず、6月の切替え発注を見送りし、しばらくこの様子を窺う取引先も出るなど、6月単月の売上が大きく落ち込みました。

なお、こうした社内・外の混乱も、ほぼ1ヶ月で沈静化し、社員のモチベーションの回復とともに、6月の落ち込みの反動があるとはいえ7月単月の出荷数量は、前年同月比8%増と回復してきております。

#### (特別損益)

一方、工場閉鎖に伴う固定資産減損損失や、希望退職者募集による退職加算金・再就職支援費、生産拠点再編費用 など、一連の「生産体制再構築費用」については、固定資産減損損失の発生が予想よりも7億円少なかったこともあり、当初想定の26億円に対し19億円の発生にとどまりました。(希望退職者募集の結果につきましては、本日公表の「希望退職者募集の結果に関するお知らせ」を、ご参照下さい)

これとは別に、中国子会社の業績について、売上増加は順調であるものの、原材料価格の高騰や人件費の増加・不良債権の増加などによって、為替差損益を除外した実態収益は悪化しているため、中国子会社に対する海外投資等損失引当金などの積増しとして4億円(連結上は中国業績が合算されるため消去)と、投資有価証券評価損・その他で2億円を特別損失に計上いたしました。

#### (法人税等)

当初10億円を想定しておりました税効果資産の取崩し(繰延税金資産に係る評価性引当の繰入)については、8億円の取崩しとなりました。

以上の状況から、個別の中間業績は、6月15日付の業績予想数値に対し、売上高は12億円、営業利益は2億円、経常利益は1億円それぞれ下回る結果となりました。

### (2) 連結

#### (イ) 国内

国内業績の差異は、そのほとんどが個別業績で発生しており、個別業績の差異理由は前項「(1) 個別」の通りであります。

#### (ロ) 北米

米国子会社の業績は、製品出荷が依然好調で、売上高が前年同期比で5~6%増加と総じて当初予想通り推移しておりますが、昨年からの製品価格値上げを機に、従来の売上割戻や値引等に関する計算及び精算方法について、客先との交渉も踏まえ厳格化・健全化・早期化が図られ、結果として、下期及び来期に計上される予定であった3億円程度の売上割戻等を前倒して計上することとしたため、営業利益は当初予想の2億円を3億円下回り、一時的とはいえ約1億円の損失となりました。

#### (ハ) アジア

中国子会社の業績は、売上が依然2桁近い伸びを示しているものの、上記国内にも記載しました通り、それを上回る原材料の高騰などから、営業利益が当初予想の損益ゼロの水準から2億円程度下回り、約2億円の損失となりました。なお、経常利益につきましては、一段の人民元高によりドル建の借入金等について為替差益が約3億円発生したため、経常利益では当初予定の2億円の損失に対し1億円良化し、約1億円の損失となりました。

以上の状況から、連結での中間業績は、売上高が420億円、営業利益が13億円の損失、経常利益が12億円の損失、当期利益は42億円の損失となりました。

通期の業績予想につきましては、一層の合理化努力と製品値上げを実施することにより、連結・個別ともに6月15日に発表いたしました予想数値に変更はありません。

上記業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、天候不順や為替変動等の様々な要因により異なる場合があります。

以 上